

ひめだ高宏ニュース

NO.1006
14.4.23

日本共産党 和歌山市会議員

あゝ。韓国旅客船沈没事故

韓国・珍島沖で高校の修学旅行生などが乗った客船沈没事故では、まだ2百人近い行方不明者の多くが船内に取り残されているようです。報道では、高校生を誘導し人命救助を優先して、命を落とした女性乗員がいる一方で、船長や航海士ら乗船に携わる乗員は乗客の救助をせずに全員脱出していることが、びっくりです。とても残念です。

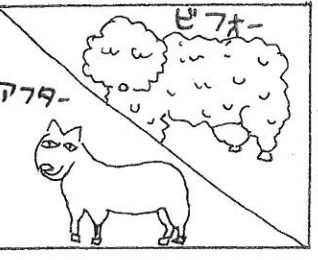
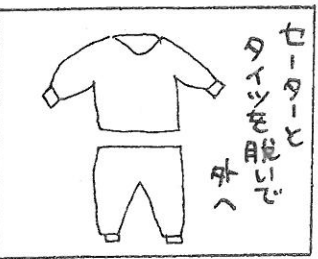
子どもの医療費助成拡充を

4月10日(木)日本共産党北部地区委員会が集めた「子どもの医療費助成を中学校卒業までの拡充を求める要請署名」2065筆と「国保料1人1万円引き下げを求める要請署名」2200筆を大橋市長に提出し懇談しました。提出には、中村あやと市議、神達子定候補、森下さち子市議、田長、松坂みち子市議、藤井健太郎市議が参加しました。

大橋市長は、子どもの医療費助成はしっかりしない。本来、国がやるべきことだと述べ、国保料が高いことは、わかっており子どもの医療費助成の拡充より先に何とかせなにかんという気持ちと述べた。このことですが、結局は、要請は次の市長に引き継いでいくとのことでした。

そんなことを何にもしてこないで、次の市長に引き継がせようとする。松坂議員の話によると、大橋市長は、子どもの医療費助成はしっかりしない。本来、国がやるべきことだと述べ、国保料が高いことは、わかっており子どもの医療費助成の拡充より先に何とかせなにかんという気持ちと述べた。このことですが、結局は、要請は次の市長に引き継いでいくとのことでした。

アリの人々



こんにちは 日本共産党のかとう直人です。

(その16)



かとう直人 (県議予定候補)

和歌山の障害者団体の和障協(わしやうせうけい)をご紹介します。障害者への権利がたいがしうにされたいように、4つの権利(生きる権利・学ぶ権利・働く権利・政治参加の権利)保障運動を行っております。

美浜町の中橋さんは脳性まひのため小学校から未就学。75歳で初めて養護学校で学ぶことが実現。和歌山市のこの家で暮らしたいと重度障害者が1日24時間の介護時間を求めた裁判が勝利。家で障

害のある子どもを介護する母親の負担はどのでも。共通課題で公的福祉の責任求める運動、インデアのギャップガイドブックの会の市女調査で視覚障害者、車椅子使用者も移動できるように。難病患者の医療費助成や障害福祉の適用求める運動、障害の早期発見と早期療育で障害の軽減につなげるシステムづくり、など多くの要求と運動、課題提起が和障協活動とかがわります。さらに広範な民間を実現するため、その役割を和障協は果たそうとしていきます。

子ども医療費助成 医療後5年間は受給可

県下各地では、子どもの医療費助成制度が拡充され、現時点でも高校生まで広げている自治体もあります。和歌山市は大橋市長の消極的な姿勢を反映し、和歌山市の子ども医療費助成制度は、就学前までですが入院については小学生まで受けられます。ただし、小学生の入院時の受給資格証は、別に申請が必要です。

対象者には「乳幼児等医療費受給資格証交付のお知らせ」が配られています。中には申請をしなかったために助成を受けていない方もいるようです。そういった方についても、医療後5年経過するまでは、さかのぼって受けることができます。問い合わせは市役所(子ども家庭課435-1219)または、私、ひめだまで。

市政ウォッチング 大赤字の分譲地

市政ウォッチングから、スカイタウンつづじが丘の分譲地について紹介します。和歌山市が開発した分譲地であるスカイタウンつづじが丘は、無計画で無責任な公共事業が将来にわたって市民の負担になることを教えてくれます。

1979年、当時の宇治田市長時代に「第4団地」建設計画に着手。計画戸数

2200戸、総事業費123億円でした。その後、計画は中止され、ゴミ処分場にしたものを、田市長時代に再び分譲地として事業を再開。以降計画変更による事業費の増額を重ねました。その中には、各家庭からのゴミを集積場に運送した管を運んで運ぶ「ゴミ輸送システム」に管の設置など多額の経費を伴いながら実用化しなかったムダも含まれています。

日本共産党

「混合診療」解禁許すな
公的医療保険の対象となる診療(保険診療)と保険対象外の診療(自由診療)を併用する「混合診療」解禁にむけ、安倍首相が政府の会議で具体

化を加速するよう指示しました。

「混合診療の原則禁止」は、「国民皆保険」の理念に基づき、国民に対して医療を平等に保障する重要な仕組みとして確立したものです。高額な最新の治療でも、安全性や有効性を厚労省が確認すれば、速やかに保険の対象にして、広く国民が利用できるような指示を

「混合診療の原則禁止」は、「国民皆保険」の理念に基づき、国民に対して医療を平等に保障する重要な仕組みとして確立したものです。高額な最新の治療でも、安全性や有効性を厚労省が確認すれば、速やかに保険の対象にして、広く国民が利用できるような指示を

辻田光彦さんのこと

4月20日、元和歌山バス労働組合委員長の辻田光彦さんが亡くなりました。初めて市会議員に当選した頃、和歌山バスのみならずから「交通権」とか「交通弱者」といふ言葉や市民生活に密着する公共交通であるバスについて、労働組合の取り組みなどを教えて

もらいました。そうしたこともあり、高齢者や障害者のバスの無料制度を市議会に提案することができ、現在の制度につながっています。和歌山バスのみならずとの交流は私、ひめだの議員活動のルーツの一つです。辻田さん、ありがとうございました。

